

野川について

野川は多摩川の支流で、延長は 20.23 km。国分寺市の東恋ヶ窪にある日立製作所中央研究所内にある大池にその流れを発し、国分寺崖線^{がいはん}に沿うように、小金井市、三鷹市、調布市、狛江市を流れ、世田谷区にある東急田園都市線・大井町線二子玉川駅の下流で多摩川に合流する。流域面積は 69.6 ㎢あり、流域人口は 9 市 1 区合わせておよそ 71 万 5,000 人である。

野川の原型は、武蔵野台地に降り注いだ雨が地下に浸透し、その水が「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線の各所から湧き出すことによって形成されたと考えられている。豊富な湧水があることから、野川の周辺には昔から人々の生活があり、周辺の畑からは土器や石器などがよく見つかったと言われている。



野川は街中であって自然を身近に感じられる場所

清流を取り戻した野川

高度経済成長期、押し寄せる市街化の中、野川は生活排水によって汚染され、生物の住まないドブ川となってしまった。このような中、1972 年（昭和 47）に野川に清流を取り戻そうと市民の間から運動が起こった。この動きはやがて広まり、野川の周辺に川の自然を守ろうと市民グループが多数形成された。その後、流域の住民と行政の連携の必要性を明記した改正河川法の成立にあわせ、これらの市民活動と東京都はじめ流域の行政機関が連携し「野川流域連絡会」が立ち上がった。連絡会では行政機関や市民活動グループが集まる活動報告会を開催するなどして、野川の環境保全活動について情報を共有している。

一方、野川周辺地域の下水道は 1968 年（昭和 43）年から流域下水道によって担われている。下水道幹線と終末処理場（水再生センター）は東京都が担当し、各市は公共下水道を整備している。1965 年（昭和 40）には 6% だった多摩地区の下水道普及率も平成 20 年度末には 98% に達し、多摩地区の河川水質は大きく改善された。

下水道整備の進展と川を保全しようとする市民活動により、野川には多くの生き物が戻りはじめている。



「野川流域連絡会」活動報告会の模様